

神戸とエトランゼ



# いつまでも仕事を

—エリーゼ・ユーハイムさん—

陳舜臣

戦争中たべ物がなく、すこしでもお腹の足しになるものが売っていると、行列をつくったのをおぼえておられるだろう。

たいていの食料品店は、店頭にならべてマルクで売るのはほんの申訳ばかりで、ほとんど裏口から闇で流したものだ。そのとき、洋菓子のユーハイムでは、ありつけの品物を、ぜんぶ店頭で売った。一人あたりはどんなに少くとも、とにかく皆に行き渡るように心掛けた。これがユーハイム精神の一端である。

「商売で一ぱん大切なのは正直と誠実です。それが基礎となつて客の信用が築かれます。これに加えて清潔と親切がまた大切な要素です。そうすればお客様は、自分

が心の底からもてなされていると感するにちがいありません。これが商売の秘訣だと思います」

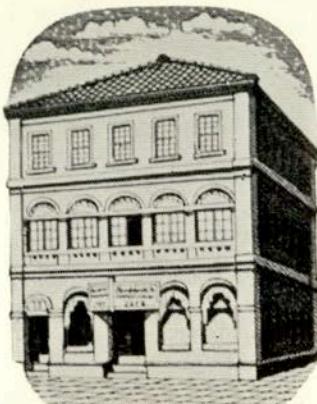
エリーゼ・ユーハイムさんは、ものしづかに語った。

エリーゼさんは、東独との境界に近い西ドイツのハルツ州に生まれた。十三才で父をなくし、親戚に預けられあらゆる辛苦をなめてきた。この小柄な品のよい老婦人には、なにか一本シンが通っている。ふとい鉄棒ではない。ピアノ線のような、細いけれど強靭なスジである。

カール・ユーハイムさんと結婚したのは第一次大戦前で、ご主人と一緒に中国の青島へ渡った。青島に着いてまもなく戦争が初まつた。ドイツに宣戦布告した日本が青島を攻略し、在留ドイツ人は抑留されて日本へ送られた。つまり戦争がユーハイムさんを日本に結びつけた



現在のユーハイム本店



戦前のユーハイムの店



最後に'Sと複数がつけられた  
ユーハイムの店名

のである。日本の欧風菓子は、このとき青島から渡日したドイツの人たちによって紹介されたのだ。「青島からの仲間だったフロインドリーブのおじいさん、ケテルのおじいさん、いまはみんな亡くなりました」

ご主人のカール・ユーハイム氏は来日して東京の明治屋にはいった。日本で洋風の生菓子をつくった最初の人である。エリーゼさんは、別に横浜で店をもつた。とにかく彼女は、じつとしているのが大きらいである。

「人間は仕事をしなければいけません」

とおっしゃる。一家の主婦として、家事だけをみるといのうのは、エリーゼさんの気性にあわなかつたのである。

横浜の「エリーゼ・ユーハイムの店」は大いに繁昌した。だが好事魔多しで、業績躍進の途上、あの関東大震災に見舞われたのだ。横浜の店でも何人か死傷者を出した主人のカールさんも重傷を負った。ユーハイム一家は船で避難することになった。

横浜沿岸の石油タンクの石油が海へ流れ込み、それが燃えていた。文字どおり「火の海」を乗り越えて、一家は神戸へ着いた。これは避難であるが、エリーゼさんはじつとしておれない。

横浜で全滅した店を神戸で再建する。——彼女はそう決心した。こんどはご主人も参加することになった。現在のユーハイムの店名を見てもわかるが、最後に「がは」がはいっている。

夫婦共同の事業だったのだ。店はいまの生田警察署のむかいに構えた。震災の年の十一月一日に開店したのである。しかもご主人は重傷を負っていたので、エリーゼさんが一人でがんばったのだ。彼女のファイトは、横浜の街の復興を待つておれなかつたのだろう。とにかく、人間は働かねばならない。

「あのころは、なにもありませんでした。お金も場所もない。横浜の店にいた人が五人、ユーハイムはどこにいるかと、神戸までさがしに来てくれました。私は言ひ



「仕事が大好きです」と優しくほほえむエリーゼさん（右）と話される  
陳舜臣氏（ユーハイム本店にて）

ました。神戸で仕事をしましよう。そして、お金を借りて、仕事をはじめました。一日に三時間くらいしかねませんでしたね」

大へんなエネルギーである。神戸の新しい店も繁昌した。にしろ、材料を選んで、エリーゼさんの監督の下で、第一級の技術を使ってつくる洋菓子である。ふつう一個二錢が当時の相場だったが、ユーハイムの洋菓子は八錢で、それも「とぶように」売れたらし。

正直と誠実。清潔と親切。ひたむきなエリーゼさんの努力によつて、店が栄えないわけはない。店は小さかつたが、工場は鉄筋の大きいのを建てた。戦後進駐軍のパン工場となり、現在「コスモボリタン」になつてている所が、むかしのユーハイムの工場だったのである。

万事、順調だった。ご主人と力をあわせ、店の人たちも県命に協力した。仕事、仕事に明け暮れる生活。それを一つの奉仕と考えていたエリーゼさんにとつては、ほんとうに生き甲斐のある日々であつた。

しかし、また戦争になつた。まえの戦争は、ユーハイムを日本に結びつけ、震災が神戸に結びつけた。が、こんどの戦争は、エリーゼさんを日本からひき離したのである。

「戦後のドイツはほんとうに辛かったです。なにが辛いといって、仕事ができないほど辛いことはありません。年の人いません、と言うのです。お嫁さんの家で家の仕事を手伝つて孫の世話をします。それだけでした」

活動家のエリーゼさんにとつて、仕事のできない戦後ドイツの生活は、さぞ辛かったにちがいない。忙しく働いた神戸の日々が、なにかにつけて思い出された。あんなに心血をそそいだユーハイムの店。それが、もう形も影もなくなつたのかと思うと、耐えられないほど侘しか

つた。しかし、神戸におけるユーハイムがまったく消滅したのではない。ユーハイムの残された日本人従業員が

結束して、洋菓子製造をつづけていたのである。戦後しばらく、彼らは老舗「ユーハイム」を名乗らなかつた。

なにしろ、手にはいる材料なら、なんでも使わねばならない時代であつた。ユーハイムの伝統である「厳選された材料。最高の技術」が実行できる世の中ではなかつた昭和二十五年。戦争の傷もようやく癒えて、材料の選択や技術面でも、なんとかユーハイムの面目を保てる見通しがついて、はじめて『ユーハイム』の名をつかったのである。

新しいユーハイムのすべり出しも順調であつた。しかし、なにに足りない。材料や技術ではない。なにか、ほかのものである。彼らはなにが足りないかを知つていたユーハイムの精神的な支柱である。伝統の象徴が必要なのだ。

エリーゼさんである。

「エリーゼさんに来てもらおう。なにもしていただきなくとも、われわれのそばにいてもらうだけいいのだ」

だが、戦後の混乱期に、エリーゼさんがドイツのどこにいるのか、まったくわからなかつた。神戸のユーハイムでは渡独する神戸大学の山下教授に頼んで、エリーゼさんをさがしてもらうことにしたのである、山下教授はエリーゼさんをさがしあてた。

——よろこんで参ります。

エリーゼさんは言下にひきうけた。彼女の胸には、「仕事」にたいする憧れが湧き立つていたのである。自身なつかしの日本に飛んできて、ユーハイムの社長に就任した。昭和二十八年のことである。

この話は国際親善話として有名であるから、ご存知の人も多いであろう。

それから十年たつた。

エリーゼさんは二百五十人の従業員の母親である。自分の生活はつましいが、なにかあるたびに、孤児院に

いろんなものを寄贈する。奉仕精神から出た、心からのプレゼントなのだ。

「子供たちからいい手紙が来ます」

エリーゼさんはほほえんだ。

失礼な言い方だが、吹けばとびそうな、この小柄で上品な老婦人の、どこにファイトがひそんでいるのか、ふしきな気がする。私がインタビューアすることになつたとき、エリーゼさんは「胸がドキドキする」とおっしゃつたそうだ。それほどのハニカミヤでもある。

七十を越したいまでも、目も耳も達者である。「百まで生きますよ」とお愛想を言うと、エリーゼさんは首を振つて、

「仕事をしないで生きるのは、生きることではありますせん」とおっしゃつた。

「去年の五月一日に、曾孫（ひいまご）が生まれました。私はまだ見ていません。こんど帰つて曾孫の顔が見られます」

目を細めたエリーゼさんの顔は、ほれぼれするほど柔和であった。

「曾孫さんにお会になつて、ゆっくり骨休めをしていらっしゃい」

「いいえ！」エリーゼさんは断乎として首を横に振つた。「こんどの旅行も仕事です。ヨーロッパのほうほうをまわります。各地の菓子製造工場を見学したり、技術の話をきいたり、連絡したり……たくさんたくさん仕事があります」

やさしいおばあさんだが、いつまでも仕事にファイトを燃やしておられる。骨休みなどといい加減なお世辞は言うまい。エリーゼさん、いつまでも長生きをして、そして、仕事をしていくください！

（作家）

夏を装う美しい帽子



婦人帽子

マキシン

神戸・トアロード TEL ③ 6671-3  
東京・銀座3-2 TEL (535) 5041

ネクタイの

元町バザー

神戸・元町



特選  
ハンドバッグ  
専門の店

ジ ラ サ

元町2丁目・③0813

ariel  
アリエル  
フランス製アリエルの  
レインコート入荷しました

美しさを創る…

アスター・ニュートン

トア・ロード③1819

# すばらしい噴水が誕生する！

■出席者

牛尾吉朗

神戸青年会議所副理事長  
ウシオ工業KK社長

竹田剛

神戸西貿易常務取締役  
神戸オプチカルKK社長

鳥越浩

神戸青年会議所会員  
神戸エスマ商会社長  
神戸国際青年会議委員長  
鳥越浩

東敬三

最近の神戸青年会議所（神戸JC）は活発な活動を展開して、神戸つ子の話題を集めています。東洋の貿易港といわれる、シンガポール市の青年会議所と、姉妹JCとして提携することになり、牛尾吉朗理事長をはじめとする16人の代表をシンガポール市に送り、

こうした、神戸青年会議所の力強い歩みを中心に、シンガポールJCに派遣された神戸JC代表団のメンバーの方がたにお集りいただいて、話を伺つて見ました。

神戸市とシンガポール市の  
かけ橋に！

シンガポールJCの当時の副理事長をなさつて、イー・ホン・シヤが神戸に立寄られて、『シンガポールにもぜひ来てもらいたい』と招きを受けていたのです。

そして、やはり昨年10月、香港でのJC、世界会議に、神戸JCから数名この会議に出席しました。この会議のとき、参加した神戸JCのメンバー揃つて、シンガポールJCを訪ねまして、神戸JCから記念に兜をプレゼントするなど親密な交流をもつようになつたんですね。

ことにはいつから、シンガ

ボルJCの理事長にイー氏が就任され、神戸JCとのつながりが強くなり、現在の鳥越国際関係委員長の提案がきっかけに

C）は活発な活動を展開して、神戸つ子の話題を集めています。東洋の貿易港といわれる、シンガポール市の青年会議所と、姉妹JCとして提携することになり、牛尾吉朗理事長をはじめとする16人の代表をシンガポール市に送り、

去る4月16日までたく姉妹JCと

して調印式を終り、民間外交の成績を充分にあげ、国際親善にも大きな役割を果してています。

なお、神戸青年会議所では、『神戸の観光のポイントを作り町を美しくしよう』と神戸市をはじめ各団体に呼びかけ、東遊園地の一角に大噴水の建設を主唱し、着々と噴水建設の工事が進められています。

東「去年、私は、神戸JCの国際関係委員長をつとめていましたが、たまたま、世界JCの大会が大阪で開かれまして、この時、シ

なつて姉妹JCを結んではどうか  
というようになつた訳です。

姉妹JCは、神戸JCからの提案たつたんですが、シンガポールJCでも、全会員一致で賛成といふ非常にうれしい結果を得て、調印式の機会を待つてましたところ、シンガポールでの、世界会議で、各国の代表を前にしてサイニングセレモニーを行ないたいと、シンガポールJCからの案内を受けまして、神戸JCでは調印使節団を送つてめでたく姉妹JCの提携を結んだ訳です。

牛尾 「神戸青年会議所では、今回、姉妹JCの提携につきましては、あらゆる角度からシンガポール市と神戸市とのつながりを検討しまして、国際親善に神戸として手を結ぶ都市であるという確信をもつています。

第一に地理的条件が非常に似通つている点、第二に、経済的に見て、いづれも世界的な港都であるということ、第三に、現在、実際に貿易などをとおして、非常に密接な関係にあること、これは貿易高をござんいただいてもはつきりしています。例えば、神戸市として在外事務所をおいているのは、世界中でシンガポールだけなんですよ。

我われ、神戸JCとしましてはやはり貿易上絶対に必要な拠点であるということがつかめました。されば、神戸JCとしましては現在、神戸市が、シヤトル、マルセイユと姉妹都市を結んでいます。今回の姉妹JCの提携については、シンガポールと姉妹都市を結んではどうかという意向をもつていてますし、神戸市とシンガポール市のかけ

橋の役割を何とかして果したいと  
いう目的で行なつたのです」

鳥越 「いま牛尾理事長がいわれたように、シンガポールJCとの提携は、従来の立場とは逆に神戸市をリードして行こうという積極的な意味をもつてゐるんです。神戸JCとしての夢はこれを契機に、南アフリカ、南米にも、シンガポールJCから案内を受けまして、神戸JCでは調印使節団を送つてめでたく姉妹JCの提携を結んだ訳です。



伊藤田氏 伊藤鳥氏 伊藤竹氏 伊藤牛尾氏

した」ということです」

「シンガポールと神戸青年会議所の姉妹JCの調印式の模様は――

竹田 「東南アジア会議シンガポール大会が、4月16日、ピクトリニアターで行われ、神戸JCの代表団も開会式に出席し、開会式の終了後、ピクトリア・メモリア

ルホールに席を移し、文部大臣を始め政府高官、各界来賓、各国JC代表が列席のうちに、海軍軍樂隊が演奏のなかを、サインの交換

とプレゼントの交換が行われ、牛尾理事長が挨拶、鳥越国際関係委員長が通訳するという、盛大な調印式でした」

牛尾 「シンガポールでは当日の模様は詳しく述報され、特にテレビは東南アジア会議から調印式までを番組に織りこむと言う行届いたもので、特に参加した各国JCも調印式はこの会議でのハイライトだと感激していましたよ」

東 「この度の調印式に牛尾夫人が同伴出席され、調印式に花を添えられましたね」

鳥越 「国際会議の団長格の人はご夫人を同伴されることですね」

竹田 「テレビ局も敬意を表して牛尾夫人に盛んにカメラを向けるんだが、我われには、カメラを向けてくれないんですよ」（爆笑）

――こんどは、話題をかえていた

牛尾 「シンガポールを紹介していただきたいんですが――

牛尾 「シンガポール市は人口、170万と言われています、町全體は非常に美しいし、市民の公衆道德への関心も深く、東南アジア最大の近代都市です、ここでは後進国と言ふような文句は当はまらないでしようね、例えば、市庁舎でも、立派なものでね夜になれば、市庁舎を照明して、夜空に浮いて見えるんです。そしてこれが市の名物にもなつていてるんです」

鳥越 「確かに、そう言う演出はうまいですね。外人同志の会話のなかには、その町がクリーンな町



日本で初めての  
大噴水が  
建設されます



主 唱

神戸青年会議所

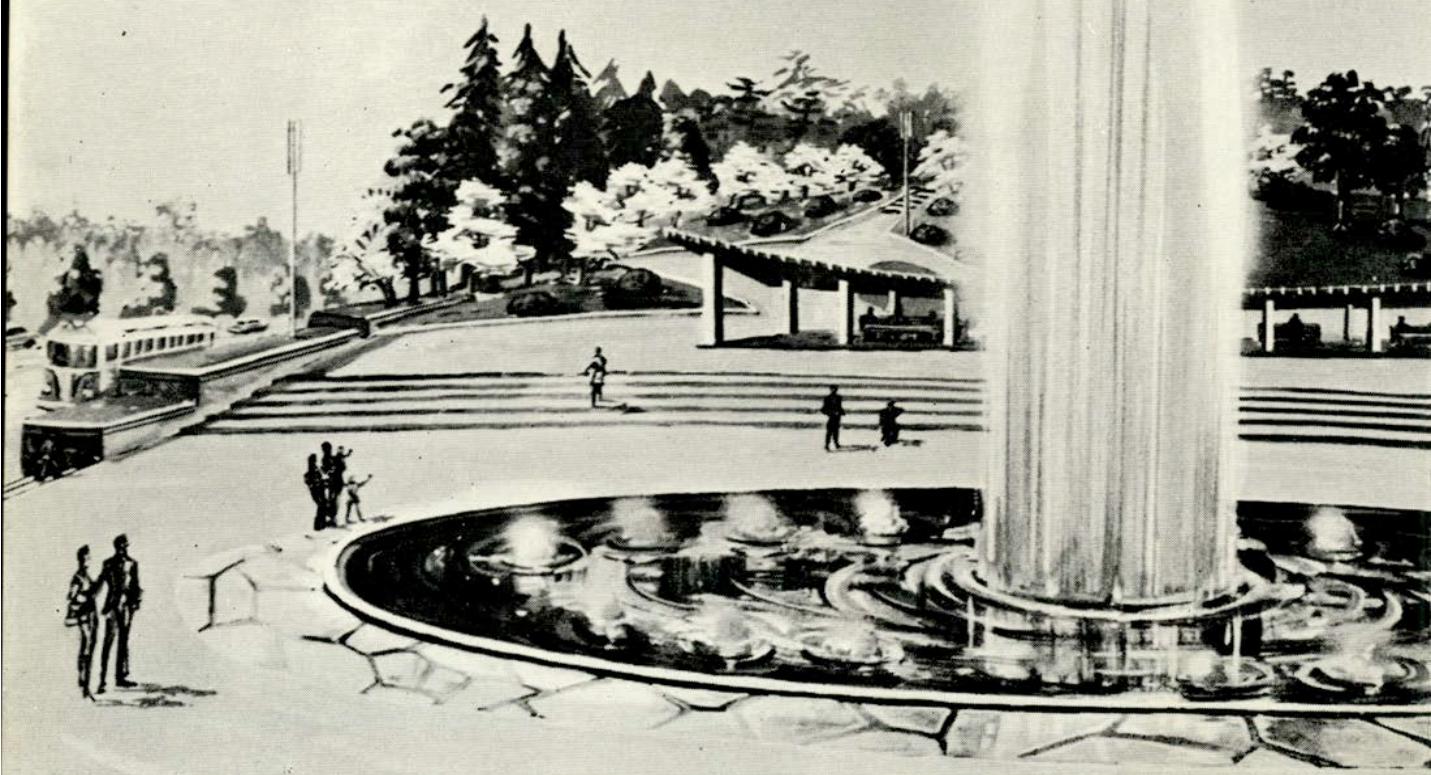
神戸青年会議所は“新しい  
神戸”を担って立つ青年経  
済人の集いです。

設立5周年を迎えた神戸青年会議所では、“神戸を美  
しくするため”に“と日本で  
最初の雄大な噴水公園の建  
設を主唱、完成も間近にな  
りました。

市民の憩の公園として、また  
観光神戸のポイントのひ  
とつとして、神戸港の玄関  
口を飾りたいと願っていま  
す。

市民のための噴水建設にご  
協力下さい。





江戸、とうきょう、TOKYO——花咲くミナト神戸から、ふしきな町にやってきました。

◇

まず、人と車がやたらに多いのでたまげてしまう。銀座四丁目のカドに立つてネオンの林をニヤニヤと見回していたら、案内役をかつてた同僚のA君が「おのぼりさんみたいでみつともないからさつさと歩こう」と、ぼ

座四丁目のカドに立つてネオンの林をニヤニヤと見回していたら、案内役をかつてた同僚のA君が「おのぼりさんみたいでみつともないからさつさと歩こう」と、ぼ

## わんぱくざかり江戸日記

# 雜踏 伊達俊郎



まで読み通してやった。十分かかった。

◇

国電。このぐらい「東京らしいもの」はない。朝、夕のラッシュ時、緑や赤の腕章をつけた学生アルバイト氏が、紳士淑女諸君をぐいぐいと押込む。『押し屋』とよばれるアルバイト氏も、もちろん乗客諸氏も汗たらたら……。電車のドアの前で押込まれる順番を待ちわびていた紳士淑女諸君は、自分の体が確実に車内に入ったのを知ると、とたんに「アラ」とか「ヤレヤレ」とかいいながら満足そうにはお笑む。車内に入ったら、こんどは、もうこれ以上人間をつめ込まざないように体の表面積を拡大するのが東京に生きるためのコツである。BGさんは、とやかにもいたいたい悲鳴をあげ、サラリーマン君はスポーツ新聞を広げてできるだけ自分の回りにスキ間をつくろうとする。この点が東京人は実にスマートだ。ほんとに感心する。

◇

『押し屋』の手さばきが見事なので、ためしにぼくも順番を待つてみた。ドアの内側にやつと体半分を入れてもらつたが、これ以上はどうにもならず、ぼくとアルバイト氏は汗だらけの顔を見合せて途方にくれてしまつた。そこへ赤い手旗をふらさげた駅員がすつとんてきて、いきなり『押し屋』を押しのけ、ぼくと、もうひとり中年のサラリーマン氏をはぎとるようにホームへひきずり出した。あとでA君から説明してもらつたが、さいきんはこういう『はぎ屋』も登場してきたのだという。

「関西の私鉄じゃあ、駅員が改札口でいちいち帽子をとつて客にマイドアリガトウつて礼をいうんや」と出まかせをいつたら、この江戸っ子先生、何でも知つてるような表情で「そうだろうなあ、むこうは東京に比べればまだ田舎だからなあ」と答えた。

東京に住む人たちは、踏まれても、蹴とばされても、なかなか「われ首都に住めり」という自信を失わないのである。

くのわき腹をこずいた。

東京の人たちは、田舎者と思われないように神経をとがらせているので、みなわき目もふらずに急いで歩く。『町のあちこちを楽しみながら見歩くなんてことはそもそもおのぼりさんのすることだ』——A君はそんなふうに思い込んでる『成上がり江戸っ子』だ。しゃくだつたから、なおも立ちどまつて電光ニュースを初めから終り



夏はビールの季節だ！

コクのあるビールが飲める

ビールがうまくなる料理がある

ビヤホール&レストラン

二二・ト・二二・

神戸 三宮大丸山側 (3) 1422・6457



きものと細貨

東京 神戸

	新橋店	銀座店	東店	西店
TEL	571	571	333	333
ST	70	78	08	88
ア	72	21	63	32
地階	(代)	7	07	69(代)



あんざら庵

オメガシーマスター



防水時計は

美 田

MOTOMACHI-3  
TEL (3) 1798

あなたと私のバカンスルック



SUGIYA

ハンカチと下着の店  
トア・ロード TEL(3)3436

## ガラスのしるべ

矢野 有尚

硝子と云う字は、徳川時代の辞書にも見られますが、それがガラスと発音されるようになったのは明治中期、英國からガラス製造技術が導入されてからと伝えられています。

なつかしいビードロ、又はギャマンなどと云う言葉で呼ばれて来たガラスが、わが国で使われ初めたのは、徳川時代オランダあたりから舶来品として来たものと一般に思われているようですが、これはあくまで、古くからわが国にもあったのではないかと考えられています。現在のようにすぐれた透明度、色彩はありませんが曲玉の類にガラスに類似したものが数多く見られます。私たちが一度耳にしたことがあると思いますが仁徳天皇の御陵付近からもガラスの杯と思われるものが発掘されています。大きなものは技術的にはむづかしかつたものと見え、小さなものは奈良朝時代からさかんに製造されたようです。平安時代に入り次第に製造がおとろえ、その後、足利末期外國貿易が開かれるまでガラス製品は見つけられなかつたようです。当時はごく限られたハイソサイティの人々に愛用され徳川時代に入り、ビードロと

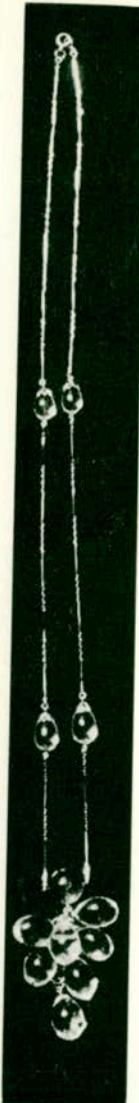
云う名で巾をきかせていたものです。

そこで現在の様にガラス製品があらゆる分野に発展したのは第一次世界大戦以後でありさらに昭和に入るとそれ専門化され、製法技術もオートメ化され、ガラスの持味を生かした室内装飾品、あるいは工芸彫刻品として登場。大衆に広く愛されるようになってきました。ガラスの伝統的な性格と、本質的な近代性とが認められて来たことでもあります。

きらびやかなガラス工芸品は一様に美しく見えて、選択に迷うのですが、良い場所で良いものを、ジカに眼から吸引し、長い時間をかけて、数多く見て、いるうちに自分の本当に好きなもの、これだという感覚が身について来るものです。目に見えない作者の苦心、作品の価値その神秘的な美しさを語っているのはなんといっても作品そのものなのです。

いつまでもガラス工芸品の美しさは、見る人々の心を楽しませてくれることでしょう。

（ガラス工芸・くらしのデザイナー）



# 白を着る

福富芳美



どいた手入をしたものです。何着も揃えて、いつも汚れないものをしていました。とにかく、紳士の最高のおしゃれは、夏、白い服を着こなす方がただと言われます。それは、夏、白い服を着こなす方がただと言われます。

『白』はドレッシィに着る場合とたいへんスポーティに着る場合とふた通りにわけられます。ドレッシィに『白』を着こなせるのはむしろ大人の方達でしょう。大人っぽく個性的にモード的に着なければ野暮ったくみえるものです。

『白』は夏の色です。涼感を呼ぶ、モダンで清潔な色で、夏のベスト・カラーです。今年は、カラー・フルなファッショングの反動のように『白』が流行しはじめたようです。

パリでも、ディオールなどが、モードのポイントに、『白』を十分に使って、清楚なデザインで流行のさきがけをつくっています。

『白』と言えば、どなたも、幼ない頃から身につけられたカラーですから、こんなポピュラーな、年令のない色は『白』だけが持つものです。

『白』といつてもいろんな種類があります。さらしていい生肌の白。すきとおらないブロードの白。まつしろい涼しい麻。にい光のサテンの白。オーガンジーのすぐれる白。やわらかい感じのアイボリーの白。木綿の白。まだまだ『白』はたくさんの種類があります。

それだけに白は一つの色でありながらたいへんむづかしい色なのです。

『白』を着る』おしゃれはなんといっても清潔なものを着ることが大切です。汚れた白は見るからにいやなものですね。

昔、おしゃれな紳士は、夏は白麻の服を着ました。そして白い服を着こなすために、大へん気をつかいゆきと

若い人たちには白はよりスポーティに着ていただきたいものです。白を部分的に使って清潔感と若さを生かしてみましょう。小さく『白』をびりっときかせるといふこともたいへん効果があるものです。普段の服に白い手袋、白い衿は清潔さをあらわします。ポケットの白はアクセントに。また『白』のワンピースの衿や胸元にぱとした明るい赤か紺のボーダー造花をつけたり、ベルトの色は派手なものをするなどの工夫はかわいらしいドレス的な雰囲気をだしてくれるものです。

この夏は『白』を上手に使かつたおしゃれを楽しんでください。

太陽の光にとぼしいパリの町では、グレーの装いがマチしますが、海と山を身近にした明るいリゾートの町神戸はもつとも『白』の装いふさわしい町といえるでしょう。輝やく夏の光をあびて、ホワイト・モードで美しく装おつください。(神戸ドレスマーカー・女子学院長)



紳士服飾・婦人服飾  
**セリザワ**

紳士服飾//大丸前 (3) 31900  
婦人服飾//大丸前 (3) 1695  
婦人服飾//三宮センター街 (3) 6114  
婦人服飾//姫路やまとや (23) 1221

汗ばむ季節に 1時間パーマ



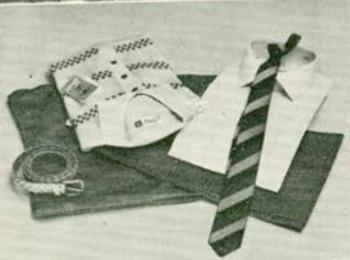
マキシン美容室神戸店  
**Maxine Beauty Shop**

神戸・三宮神社前三上ビル3階 電(3) 4917  
西寺尾店(文化センター内)・横浜元町店(03) 0312  
蜂井沢店 2771・博多大丸美容室・香港大丸美容室



洋品雑貨  
**リリアン**  
ショップ

センター街 ⑧ 3251・3567



流行のトップを知らせる  
メンズショップ

**千秋堂**

元町4丁目④ 6959



コスチュームアクセサリー

**芸げいむ夢**

トアロード ⑧ 8643・2293  
心斎橋ロビー (211) 5153  
心斎橋名店街・小丸ビル

空と山と海の町

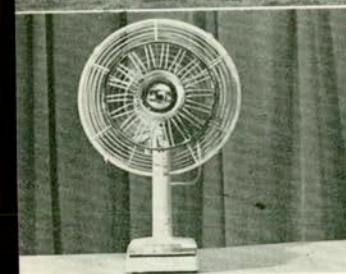
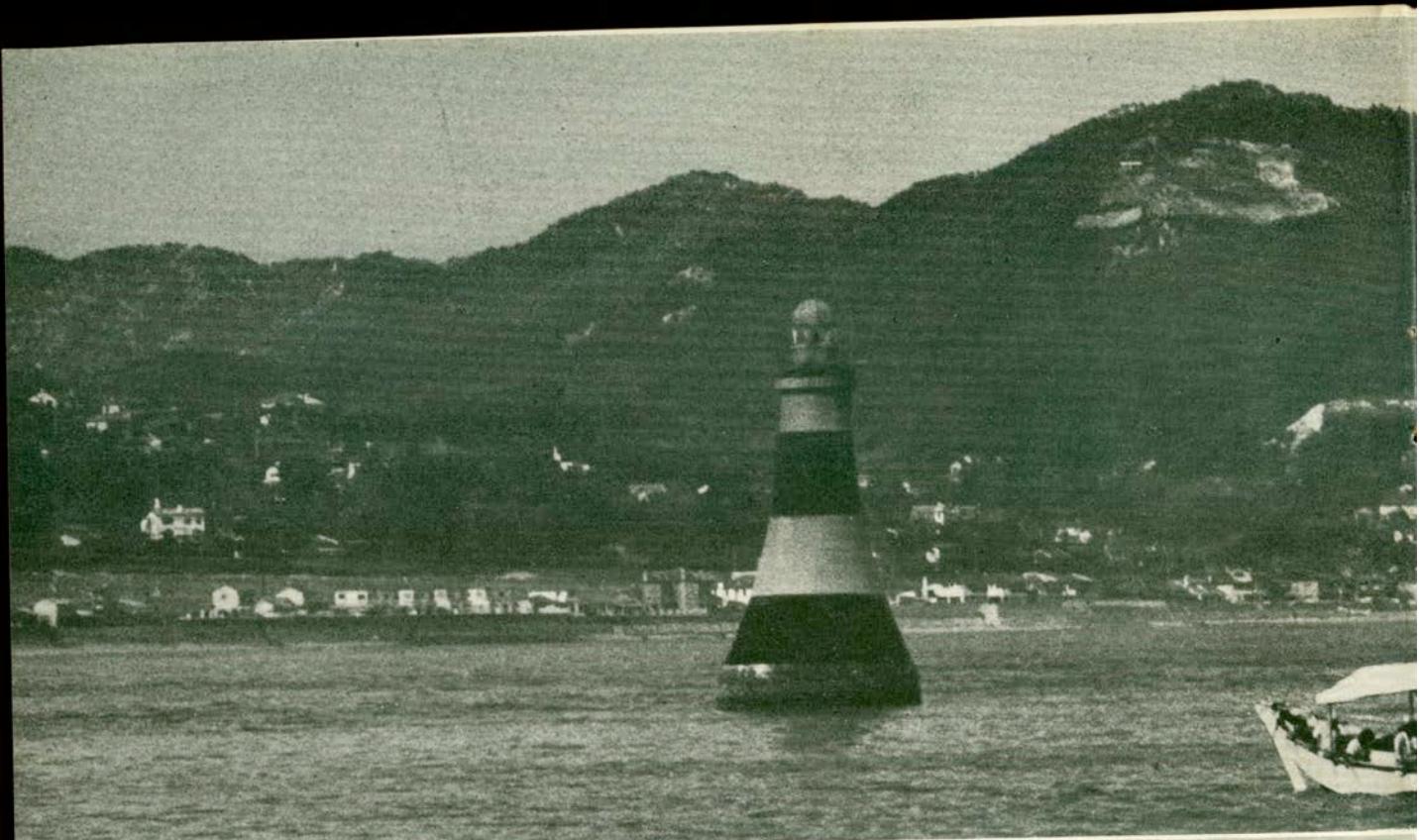
**KOBE**

夏のお買物は

美しい神戸の

トップショップで

お楽しみ下さい



あらゆる電器製品の店

## 元町電機

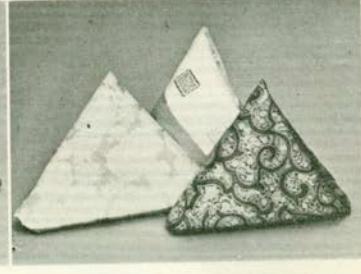
元町6 ④3701~5



紳士洋品の店

## サカエ

元町2 ③5122



夏の装いのお仕度を

秀品店友の会加盟店

## トーレイ洋装店

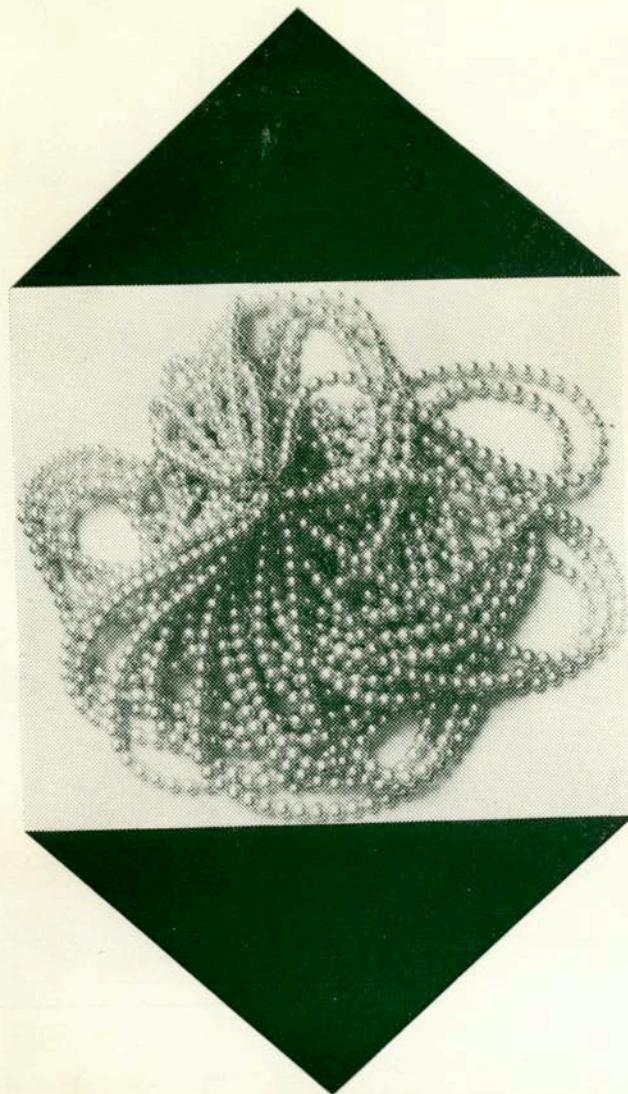
新聞会館1館 ②2818



男子洋品の店

## フナキヤ

元町3 ③3617



## 斯界の代表タサキパール

ネックレス, リング, ブローチ  
真珠装身具一切



養殖加工 **田崎真珠**

K.K. 輸出販売 取締役社長田崎俊作

本社 神戸市兵庫区旗塚通6丁目9番地 TEL神戸(23)3321-3  
東京店 東京都銀座西6丁目5番地(並木通) TEL東京(572)2655  
神戸店 三ノ宮駅前神戸新聞会館秀品店内 TEL神戸(225)6446